



# 群馬県立がんセンターだより

## 第27号

発行 平成26年10月 群馬県立がんセンター

### 理 念

私たちは、患者さんの意思を尊重するとともに地域と連携し、高度のがん医療を提供します。

### 基本方針

1. 患者さんの権利と意思を尊重します。
2. 地域と連携し、適切ながん医療を提供します。
3. 教育と研修を充実し、優れた医療人を育成します。

## 2014年リニアック棟増築とともに

9月8日、新しいリニアック Novalis Tx が使用開始になりました。前放射線治療部長及び前技術部長の時から予算要求を行い、2012年度に機種決定、2013年度に建屋の建築工事、竣工そして機器の搬入という異例の通年事業となりました。

今回のリニアックの特長は、機種決定の段階では使われ始めたばかりの6軸制御の患者ベッドを採用したことです。放射線治療においては数十回にわたり治療を行いますので、患者様の位置の再現性は治療精度を考える上で最重要の課題です。そのため、現在では治療装置に付随した簡易CT機能で得られた画像と治療計画時の画像情報とを重ね合わせ、ずれの分だけベッドを移動させる仕組みとなっています。放射線治療計画はX線CTの画像を用いて行われますので、一見、2次元の平面様ですが、本来は3次元の円柱状の位置座標を持ったデータです。今回、従来装置ではできなかったベッドの回転と頭尾方向の上下移動により、本当の意味での3D-3Dマッチングを行うことが可能となり、位置精度の向上は計り知れないものがあります。

もう一つの特長はExacTracというIGRT（画像誘導）専用のX線装置です。この装置は治療装置と別に稼働することが可能で、治療中の患者様の動きや呼吸性の臓器移動も検出できるようになり、将来の動体追尾治療も視野に、患者様の負担軽減や治療精度の向上が期待されます。

その他、従来のIMRTも機能が向上し、リーフの厚さも薄く、より複雑な腫瘍形状への適用も可能となりました。また、IMRTに回転照射機能が付加されていますので、照射時間の短縮にともなう患者様の負担軽減に役立つ予定です。

最後に、6月の通常国会において診療放射線技師法の改正がなされ、検査に関連する行為ができるようになりました。これは診療放射線技師が患者様に処置を施すことができるという画期的な法律改正であり、具体的な内容については省令の公布を待たねばなりません。前立腺がん治療における直腸ガスの抜去、画像診断における注腸検査、自動注入器による造影剤の注入及び静脈における抜針・止血などが考えられ、放射線技師の業務も新たな黎明期に入ったと思われます。

今後もチーム医療の一員として、患者様に対し高度のがん医療を提供してゆきたいと思えます。



技術部長 篠原 康治

# MD アンダーソンがんセンター研修報告

## ～優れたチーム医療の実践を目指して

薬剤部 藤田 行代志 (がん専門薬剤師)

2014年4月17日～5月25日に、アメリカ・ヒューストンにあるテキサス大学 MD アンダーソンがんセンターで、チーム医療に関する5週間の研修 (Japan Medical Exchange Program 2014) を受けてきました。MD アンダーソンがんセンターは全米の病院ランキングのがん領域において常に1位、2位を争う評価を受けている、まさに世界トップクラスの病院です。そこで働く医師・上野直人教授がアメリカの医療スタッフを連れて来日し、Japan TeamOncology Leadership Academy という、チーム医療とキャリア形成について学ぶワークショップを毎年開催しています。私は、その参加者の中から選抜された医師・看護師・薬剤師各2名・計6名のチームの1人として、研修の機会を得ました。

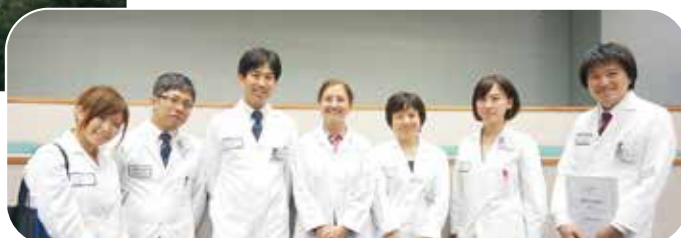
MD アンダーソンがんセンターでの研修は驚きの連続でした。ベッド数は当院の2倍くらいの規模ですが、医療スタッフは、どの職種も当院の軽く10倍以上います。外来・入院病棟は複数のビルに存在しており、研究・研修施設などを含め、10程度のビルが集まって1つの病院になっています。通院治療センターも複数の場所に別れて、合計200ほどの個室があり、一部は24時間稼働しています。このように日本とは規模も環境も大きく異なる施設ですが、部署・職種を超えて様々な場面を見学させてもらう中で、非常に印象に残ったのはチームとしての医療レベルの高さです。どの職種も1人1人が優れた知識・経験をもち、自信と誇りを持って仕事をしていました。どこに行っても複数の職種が同じ空間にいて患者さんの状態・治療方針といった情報を共有した上で、それぞれの専門性にもとづいて患者さんに接している姿は理想的な形であると感じました。1人の患者さんへの対応も密度が濃く、外来においても医師が患者さんの診察・説明に30分以上の時間を割く場面もありました。そこへ更に他の職種が入れ替わりで処置や説明を行い、患者さんの不安を少しでも減らそうと病院が一丸となって取り組んでいるという印象を受けました。

残念ながら、日本では医療スタッフの数が圧倒的に少なく、私が見てきたような医療を実践することは容易ではありません。しかし、だからこそ医療スタッフ同士がより積極的に情報共有することを意識し、誰からでも、短時間でも患者さんに質の高い医療を提供できる環境を整えることが大事だと思います。また、チームとして質の高い医療を実践するためには、各職種が高い専門性を持っていることが前提ですが、当院にも「がん」領域を始め、様々な領域の専門資格を持つ医療スタッフが集まっています。私もがん専門薬剤師です。簡単なことではありませんが、MD アンダーソンがんセンターでの貴重な経験を通じ、当院も医療スタッフ同士が連携を深めることによって、患者さんにより良い医療が提供できると信じ、日々の仕事に取り組んでいます。



MD アンダーソンがんセンター  
メインビルディングの外観

研修の指導者の1人である Sahin 先生と研修の仲間  
(左から3番目が藤田)



## ～患者さんと共に季節を楽しむ会～

春、夏、秋、冬・・・と季節はめぐり、その季節を感じることは、時間の流れや時の過ぎゆくことを感じる瞬間でもあります。このようなささやかな喜びを患者さんが入院生活の中で感じることができたらという思いで、「患者さんと共に季節を楽しむ会」（院内職員）による季節の催しやコンサートを開催しています。出演者の方もボランティアで参加していただいています。

桜の季節には施設内の桜の下で桜茶を味わい、7月には院内の七夕飾りに患者さんやご家族の願いを込めて、たなばたさまを合唱しました。

秋の催しは10月にハワイアンコンサート、12月中旬にはクリスマスコンサートも企画しています。患者さんや家族と一緒に音楽を聞いたり、歌を唄ったりすることで心温まる時間を過ごしたり、また季節を感じることで楽しかった思い出をなつかしんだり・・・それぞれの患者さんや家族にとって大切な時間となるように催し物を行っています。



7月 七夕



10月 秋のコンサート



3月 桜のお花見



12月 クリスマス



## 平成26年度「NST 専門療法士認定実地修練」の受入れについて

当センターは、日本静脈経腸栄養学会から「NST 専門療法士認定教育施設」として認定されています。

26年度は、11月6～14日のうち5日間、実地修練研修の受け入れを行います。

研修内容等の詳細については、当センターのホームページをご覧ください。



NST サポートチーム カンファレンスの様子

# 外来診療のご案内 (外来担当医一覧表)

平成26年10月1日現在

区	分	月	火	水	木	金	
第一外来	内科	消化器	野川 秀之		野川 秀之	山下 哲	保坂 尚志
		血液	五十嵐忠彦	五十嵐忠彦 入沢 寛之	村山佳予子	村山佳予子 村田 直哉	五十嵐忠彦
		呼吸器	湊 浩一 藤本 栄 (午後/禁煙外来)	湊 浩一		三浦 陽介	
	外科	消化器	福田 敬宏	福田 敬宏	尾嶋 仁 深井 康幸 持田 泰彦 佐野 彰彦 小川 敦	尾嶋 仁 深井 康幸 持田 泰彦 佐野 彰彦	尾嶋 仁 深井 康幸 持田 泰彦 佐野 彰彦 小川 敦
		乳腺	柳田 康弘 藤澤 知巳 宮本 健志 森下亜希子	柳田 康弘 藤澤 知巳 宮本 健志 森下亜希子	乳腺科医師 (新患のみ)	乳腺科医師 (新患のみ)	柳田 康弘 (遺伝)
		呼吸器			藤田 敦 喜多 秀文		藤田 敦
※金曜 ストマ外来	形成	廣瀬 太郎				廣瀬 太郎	
	婦人科	鹿沼 達哉 中村 和人 伊吹 友二 小暮佳代子	中村 和人 伊吹 友二 小暮佳代子		中村 和人	鹿沼 達哉 中村 和人 伊吹 友二 小暮佳代子	
第二外来	歯科口腔外科	山根 正之 新垣 理宣		山根 正之 新垣 理宣		山根 正之 新垣 理宣	
	頭頸科	鈴木 政美 川田 倫之 (午前再診)		鈴木 政美 川田 倫之 (午前再診)		鈴木 政美 川田 倫之 (午前再診)	
				鈴木 政美 川田 倫之 (午後新患)	鈴木 政美 川田 倫之	江口 紘太郎 (午後新患)	
	麻酔科	高橋 利文			猿木 信裕		
※火曜 1日リンパ外来	泌尿器科	清水 信明 蓮見 勝	清水 信明 濱野 達也		蓮見 勝(午前) 濱野達也(午前)	清水 信明 蓮見 勝	
		泌尿器科医師 (午後、新患のみ)	泌尿器科医師 (午後、新患のみ)				
放射線科	放射線	江原 威・樋口 啓子・工藤 滋弘・安藤 謙					

## 冬季流行感染症 (インフルエンザ・感染性胃腸炎) の感染防止のお願い

- \* 冬は、インフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症が流行しやすい時期です。感染症の持ち込みを防ぐため、お急ぎでない場合には、面会をお控えください。
  - \* 発熱、咳、鼻水、のどの痛み、嘔吐、下痢などの症状がある方、冬季流行感染症にかかってから1週間未満の方、抵抗力の弱い子供さん(12歳以下)の面会をご遠慮ください。
  - \* 来院の際は、手指消毒をお願いします。また、咳、のどの痛み、鼻水などの症状がある方は、マスクを着用してください。
- 〈ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします〉

### 診察予約 (初診、再診ともに予約制です。)

- 初診紹介予約制について  
当センターは「完全紹介予約制」です。初めて受診される方はあらかじめ電話で診療日時を予約をしていただき、診療当日は必ず主治医の紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。また、再来の方も予約制となっておりますので、事前に予約をおとりください。
  - がん検診について  
当センターでは、がんの検診(一次検診)は行っていません。市町村の検診や人間ドックをご利用ください。検診で異常を指摘された方の診療は行ってあります。
- 予約電話 0276-38-0762**
- 受付時間：午前9時から午後5時(休診日を除く)
  - 電話予約は診察を希望する日の1か月前から前日の午後1時までをお願いします。
- ※ 休診日 土・日曜日、祝日、年末年始

**入院者の面会時間 午後0時30分～午後7時30分**

## 群馬県立がんセンター

〒373-8550 太田市高林西町617-1  
TEL **0276-38-0771** (代)  
FAX 0276-38-0614  
URL <http://www.gunma-cc.jp>

